

会員企業探訪

コロナ禍での 経営に活路を ライブコマースで 情報発信



えんや呉服店 塩治 栄



売場に並ぶ可愛い商品の数々は
若い二人がセレクトして仕入れている



堅町商店街の中ほどに店舗を構える「えんや呉服店」
店頭には華やかで品の良い着物が飾られている



さまざまな教室を開催するため
2Fには広いスペースを確保している



持続化補助金を利用して配信用の機材を購入

経営理念

お客様の笑顔が一番の喜びです
創業昭和28年
きもの知識や文化を大切に

インターネットの画面に帯留めが映りそれを紹介するテロップが入る。テロップの良い軽妙なトークでしゃべっているのは店の後継者である塩治栄さんだ。するとネットを通じて、材質は何、コーディネートの方は、などリアルタイムで問い合わせのコメントが入る。その間い塩治さんがその場で答えていく。そうしたやりとりから注文が入ると翌日に商品を発送する。こうしたライブコマースも含めたライブ配信を今年の四月からスタートさせた。毎週火曜日と土曜日の夜にライブ配信(他にも思い立ったときに配信)し、これまで50本近くを手掛けた。ノンアカイブの着物雑談ライブはその倍以上を配信し、少数ながら熱心な固定ファンもできたという。

堅町のえんや呉服店は昭和28年の創業。松江の着物文化の一端を担ってきた歴史を持つ。三代目となる塩治栄さんが岡山での修行を終え帰郷した6年前は、長らく店を切り盛りしてきた母親が病気のため経営の第一線から退くときでもあった。

「母親から顧客の名簿と地図をもらいましたが、それに頼る商売の仕方はもう時代に合わなくなっていた」という。外商のため家に行く、電話を掛けるなど旧来の手法は受け入れてもらえない。ならば来店客を増やすしかない、店では常に着物姿でいることにし、着物の着方教室に注力したり、松江らしさを生かそうとお茶の飲み方講座や着物

「はじめの頃はこれでものを売ることとはあまり頭になく、店を紹介したり、自由気ままにしゃべることが楽しかった。変わってきたのはゲストを呼び始めてからです」という。

最初にゲストに招いたのは京都で活躍するしみ抜き職人だった。塩治さんとは旧知の仲である。本人は恥ずかしさを感じた。本人は恥ずかしさを感じた。本人は恥ずかしさを感じた。

「だんだんライブ配信がわかってくると、やりたいことが増えてきます。機材も必要になる。そんなときに新型コロナ対応型の持続化補助金があることを知り申請してみました」という。これは、小規模事業者がコロナウイルス感染症の影響を乗り越えるために行う販路開拓等の取り組みを支援するもので、まさに塩治さんの行っていたライブコマースにはうってつけのものだった。すぐに申請が通り、高画質カメラ、自動スイッチャー、ミキサーなどの機材が一気に揃うことになった。

塾など文化的な催しにも取り組み、着物姿でランチへ行くイベントなど着物を着る楽しさの提案も行った。さらに別の路線はないかと昨年の2月からはSNSでの情報発信を開始。後発ではあったもののきめ細かな対応が功を奏してフォロワー数も700人を超え、さあこれからというときにコロナ禍となった。

試しにやってみてみたライブ配信 その面白さに可能性を感じた

松江でも4月になって、新型コロナウイルス感染症の感染者が出て一気に自粛ムードが高まり、来店客も、着物を着るような機会もなくなった。

「影響は大きかったです。コロナ前は様々な来店客を講じてきましたが、それもできなくなりました。何もできない。ならばライブ配信でも」といきさつを語る。きっかけは4月にあった「まちゼミ」のオンライン会議だった。会議終了後、詳しい人に習いながらに試しにライブ配信をやってみたら予想以上に面白く、そのわずか一週間後には手持ちの機材で(自前のカメラやパソコン、フリーソフトを使用。つまりはお金をかけずに)第一回目のライブ配信をスタート。大々的な告知はしなかったものの10人ほどが視聴してくれた。それまでSNSを見ていた人がこのライブ配信を見て、リアルタイムで反応してくれることが面白く、手応えや可能性も感じ、文句なしに面白かった。

店の経営に変革をよぶ

ではライブ配信を行うようになってから、店の経営はどのように変わったのか。

「遠方の着物ファンとつながりができました。中には北海道で毎回ご覧になっている人もいますし、埼玉からわざわざ来店される方もいました。米子や出雲からの来店も増えています。初めて来店されるお客様でもとても親しげに話しかけてくださるので、たぶん配信をよく見られているのかなと嬉しく感じます」と商圏が広がったと手応えを口にします。ライブ配信で商品売れるより、店の個性や塩治さん自身の着物に対する思いや人柄を紹介することが、ひいては店の経営につながっていくのではと期待を寄せる。

最後にライブ配信を考えている人へのアドバイスを聞くと「まずやってみましょう。スマホひとつで始められます。恥ずかしがる必要はないですから」と答えてくれた。

■えんや呉服店
〒690-0052 島根県松江市堅町86-1
TEL 0852-21-4881 FAX 0852-21-4880
【営業時間】 10:00～18:00
【定休日】 日曜・祝日・第3月曜日・年末年始・盆
【駐車場】 6台
【Web】 <https://matsue-kimono.com/>